

この1冊に、ありがとう

目指す児童像

- やさしい子
- よく考える子
- ふるさと思いの子

この1冊に、ありがとう ～10月の校長講話より～



10月3日(月)の朝会で、読書の秋にちなんだお話をしました。左は今年度の読書週間のポスターです。読書週間が始まったのは1947(昭和22)年。まだいたるところで戦争の跡が残っている中、「読書の力によって、平和な文化国家をつくろう」という決意のもとで始まりました。毎年、10/27～11/9が読書週間の期間となっています。

今年度の読書週間のテーマは、「この1冊に、ありがとう」です。このテーマを知った時に、児童に自分の読書経験を語りたいと思いました。

私の「この1冊に、ありがとう」に該当する本は「二十四の瞳」(壺井栄著)です。中学生の時に文庫本を購入し、何回も読みました。映画も見ました。小さな島の分教場が舞台となっているお話です。主人公の大石久子先生と12人の子どもたちのふれあい。戦争と貧困によって離ればなれになる大石先生と子どもたち。時を経て、再び島の分教場に赴任した大石先生を迎える教え子たち。盲目となった教え子の一人、磯吉がみんなで撮った写真をまるで見ているように説明する場面は何度読んでもじーンときます。私は初めて二十四の瞳を読んだ時、「学校の先生ってよい仕事だなあ」と思いました。私の人生を方向付けた1冊と言えます。このようなことを児童に話しました。

ほんをよむと、 どんなよいことがありますか？

- ・じぶんのしらないことがわかる。
- ・すぐれた人のかんがえかたにふれることができる。
- ・おもしろい。

かしこくなる！



最後に読書をする時、どのようなよいことがあるのか？読書をする時間をどのようにして作ればよいかについて、左のスライドに書いていることについて話しました。

今年度の全国学力・学習状況調査報告書には、読書と学力の相関関係について書いてあります。

読書が好きな児童ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

スライドにあるように、机の引き出しに読みかけの本を入れておき、ちょっとした時間に本を読むことを奨励したいと思っています。児童が「この1冊に、ありがとう」と思える1冊に出会えることを祈っています。(裏面もあります。)



**つくえのひきだしに
よみかけのほんを
いれておこう！**

**ちょっとしたじかんに
ほんをよむしゅうかんを！**

使用したスライドの一部

10月3日(月)の朝会で、令和4年度後期児童会役員、学級委員の認証を行いました。

児童会役員

会 長	6年	瀧口	清春	さん
副会長	6年	竹越	晴哉	さん
書 記	5年	清水	瑚乃香	さん

各学年学級委員

2 年	川島	章太郎	さん
3 年	青木	将悟	さん
4 年	小角	咲絢	さん